

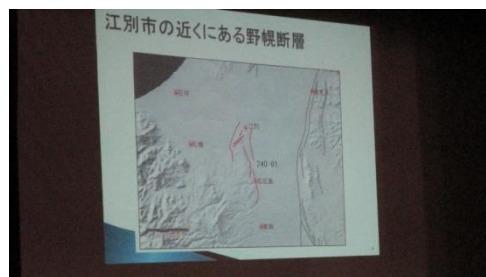
# 北海道学力向上実践事業における 講演会を実施しました

去る12月7日（水）、本校第一体育館において、学力向上実践事業における講演会を3年生普通科（地学基礎履修者185名）を対象に実施しました。今年度の講演内容は「北海道の地震災害の実態と都市直下型地震・海溝型巨大地震の特徴と防災対策について」として、昨年度に引き続き北海道大学大学院理学研究院付属地震火山研究観測センターの勝俣 啓先生をお招きしお話ししていただきました。



第一線の専門家のお話が聞けると言うことで生徒も楽しみにしておりました。内容は、まず1992年北海道南西沖地震の津波被害状況や2003年十勝沖地震での長周期地震動による苫小牧石油備蓄基地の火災などの状況が写真とともに紹介されました。次に地震を引き起こす断層の

仕組みを映像と共に紹介し、江別付近にもある断層の評価（1万年程度の周期で、1千年ほど前に活動しており、当面は大丈夫だろう）と言った説明がありました。さらに都市直下型地震（1995年兵庫県南部地震）と巨大海溝型地震（2011年東北地方太平洋沖地震）の際の揺れの様子が映像とともに比較され、その特徴の違いと、それにとまなう防災上の注意点が解説されました。この映像は特に生徒達の印象が強かったようです。最後に地震の予知について、現在の技術では難しいということ、地震雲等には科学的根拠がないということも紹介され生徒達にとって印象深い講演会となりました。



## 以下 生徒の声（一部抜粋）

- ・大学の先生からのお話は、滅多に聞くことができないので、貴重な体験ができて良かったです。授業よりさらに深い部分の地学を学び、なるほど！と思うことが多かったです。今日は本当にありがとうございました。（3年女子）
- ・地震について様々な角度から見ることができ、地震についての関心が高まりました。これからの生活の中で地震は切り離すことができない存在だと思うので、もっと地震について知るためのニュースを見たり、調べたりするべきだとこの講演を通して気づくことができました。本当にありがとうございました。（3年女子）
- ・直下型地震と海溝型地震では、揺れ方や揺れる時間などずいぶん違うんだなということがよくわかりました。揺れている最中はパニックになっていて避難も難しそうでした。普段の避難訓練が大事なんだと思いました。（3年男子）
- ・地震の前兆を雲で判断できるという噂がデマだとわかって良かったです。（3年女子）